

科目区分	専門分野	授業科目	診療に伴う看護技術 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	2 年次
<p>目的: 検査の目的および検査に必要な援助技術と、呼吸循環を整える看護に必要な基本的知識・技術を習得する。</p> <p>目標: 1 検査の目的および検査に必要な援助技術を習得できる。 2 呼吸・循環を整えるために必要な知識・技術を習得できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 検査における援助技術	6	1 検査・診察における看護 1) 検査・診察における援助の目的 2) 検査・診察における看護師の役割 2 検体検査における援助の実際 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 4) 血液検査 5) 穿刺 3 生体検査における援助の実際 1) 画像検査 2) 内視鏡検査 3) 心電図 ※1 4) 生体情報の持続的モニタリング	
2 呼吸・循環を整える技術	19	1 呼吸・循環を整える援助の実際 1) 呼吸を楽にする体位 2) 効率のよい呼吸法 3) 酸素吸入療法 ※1 4) 吸引 ※1 5) 排痰ケア ※1 6) 吸入 ※1 7) 霧法 8) 末梢循環促進ケア ※1 2 人工呼吸器を装着している人、気管切開をしている人の看護 1) 一般状態の観察 2) おこりやすい合併症	
3 創傷管理の技術	4	1 創傷処置の基礎知識 1) 創傷 2) 創傷治癒課程 2 創傷処置 1) 術後一次縫合創の処置とドレーン創の処置 2) 創洗浄と創保護 3) 包帯法 ※2	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート参加状況・態度等		

テキスト	医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版
参考資料	医学書院 別巻 臨床検査 医学書院 成人看護学〔2〕 呼吸器 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 医学書院 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論
履修上の留意事項	科学的根拠のもと安全安楽な看護技術が提供できるように、解剖生理学などの人体の構造・機能について、予習・復習し授業に臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	※1、2は演習を行う。 1 検査における援助技術、2 4)血液検査は、「診療に伴う看護技術Ⅰ」で採血の演習を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	診療に伴う看護技術Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 安全に与薬をするための基礎的技術を習得できる。 目標: 1 与薬に必要な基礎的知識と与薬における看護の役割を理解できる。 2 安全な与薬の方法を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 与薬の技術	29	1 与薬の基礎知識 1) 薬剤使用の目的と主な方法・剤形 2) 薬物動態 3) 看護師の役割 (1) 薬物に関する法律と看護師の法的責任 (2) 安全な与薬の原則 (3) 薬の管理 2 与薬の援助 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内投与 7) 注射 (1) 皮内注射 (2) 皮下注射 ※1 (3) 筋肉内注射 ※1 (4) 静脈内注射 ※1 (5) 点滴静脈内注射 ※1 8) 採血 ※1 3 輸液・輸血管理 1) 輸液・輸血の種類と取り扱い方法 2) 輸液・輸血の管理方法 3) 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察 4) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い ※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	科学的根拠のもと安全安楽な看護技術を提供するために解剖生理学、薬理学の知識が必要になる。予習・復習して授業に臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考	※1は演習を行う。		